



消防学校 ニュース



平成30年3月16日発行

学校を吹き抜ける風はまだ冷たいけれど、春の足音は確実に近づいている。
学校の裏手の山にはほんの一部だが春の訪れを知らせる彩りが見られる。(… 3月6日撮影)

平成30年3月6日～3月16日(実質10日間)

本年度最後の消防職員専科教育

火災調査科第42期



学校職員が協力したタバコの吸殻



微小火源、ガソリン・灯油への着火実験など様々な実験を行い、自らの目で燃焼状況を観察しました。

今回の火災調査科の受講者は57名、そのうち消防職員は42名(16消防本部)、残りの15名は警察職員(静岡県警察本部)です。

この火災調査科は、平成25年度から警察職員を受け入れ、合同研修という形で実施しており、消防職員と警察職員とが寝食を共にして、すべての課程を受講します。入校式には、静岡県警の捜査第一課長に御臨席いただきました。

消防の「調査」と警察の「捜査」はそれぞれ目的が異なりますが、火災原因を究明し、安心・安全なまちづくりを目指すことに何ら変わりはありません。現場調査における視点の違いや現場での状況の捉え方、考え方などをお互いに共有することは、昨今の複雑多様化した火災事案に対して必要かつ有効です。

専門的な知識・技術の修得だけでなく、更なる人的ネットワークの形成にも励みます。



見分が終わると…

車両火災見分！

3月7日、午前中に自動車整備振興会の協力を得て、自動車の構造について講義を受けました。

午後からは、実際に燃やした2台の車両について、車両火災の見分(講師：磐田市消防本部)を行いました。

車両火災の調査は簡単ではありませんが、一人ひとりが細部まで慎重に見分を行い、原因の究明に努めました。



こんなになっちゃいました…

模擬火災演習

3坪ほどの模擬家屋2棟(①・②)を建て、模擬火災を再現します。家屋の内部は、電気配線、家具、家電等が配置され、一般住宅が忠実に再現されています。



模擬家屋燃焼

①の模擬火災現場では、初任科第88期生たちが見学しました。



現場検証



“真実は灰の中にある”

という気持ちで、消防と警察が合同で現場見分を行います。
2棟の出火原因を究明するために、煤まみれになりながら、調査を実施します。
結果として、導き出した答えは正解ではありませんでしたが、全員が更なる知識・技術の向上を誓っていました。



分解・見分

「理化学実験室」で模擬家屋から収去した電化製品を詳しく調べます。本課程において鑑識の技術の向上を図ります。



3月16日

修了式



火災調査科第42期生57名の皆さんは、3月5日から2週にわたっての教育訓練課程を終始熱心に受講された。

今回修得した知識・技術を生かし、今後も更なる自己研鑽に努めてもらうほか、第42期生の横のつながりも活用して、所属全体の火災調査技術の向上、更には火災原因調査、原因究明体制の充実にぜひ御尽力願いたい。

私(校長)の講話で扱った“コンプライアンス”は、業務執行ばかりでなく、職員としての生活、人生そのものに大きく関わる問題であるから、勤務時間内外、常に意識して行動してもらうことを改めてお願いする。

やっぱり「火煙」って物凄い!!



風に吹かれて 東へ西へ

消防学校ひと苦勞話

3月9日(金) ~仏滅



火災調査科の「模擬火災演習」(講師:静岡市消防局)のため、模擬家屋2棟(屋根・壁・床付き、移動可)を準備。家屋内には家具、衣服などを配置し、出火原因を特定して事前に燃焼させる。

家屋燃焼後、火災調査科第42期生に実況見分させ、火災原因を判定させるという流れの中で、まずは屋外訓練場において1棟目に火災を発生させる。

小さな模擬家屋から物凄い炎と煙が立ち昇り、火災の恐ろしさが体験できるのだが、黒から灰色、白色へと変化していく膨大な量の煙は風に煽られて学校周辺に運ばれていく…。

ああ、そこには住宅が立ち並ぶ…。



当然のことながら、学校において実火災を起こしての訓練や防災ヘリコプターを飛来させての訓練を実施する際には、JR東海(近くを新幹線が通っているため)、静岡市消防局の最寄りの消防署、そして近隣の住民の皆さんへ、事前に日時等をお知らせするとともに、近隣の皆さんには洗濯物干し、窓開けに注意してもらうよう呼び掛けている。

しかし、その日の風向きにより、煙が近隣の家々を直撃する場合があります、この日がそれに当たってしまった。

お叱りとお詫び…。

止まぬ風、変わらぬ風…。

2棟目への着火は延期とした。



3月12日(月) ~先勝

翌週、2棟目の模造家屋燃焼を実施した。



1棟目の反省を踏まえ、2棟目は場所を訓練塔近くに移動した。訓練塔に「壁」の役割を期待したのと、訓練塔からの放水により煙を押さえ込もうと企てたもの。結果、写真のとおり、1棟目に勝るとも劣らない凄まじい煙が発生、訓練塔を越え、前回とは逆方向の住宅街へと飛散していった。

右を向いても左を見ても、住宅が立ち並んでおります。
消防学校にとっては非常に厳しい環境となってまいりました。



冷たい雨と風の日となった … “雨にも負けず、風にも負けず…”の実践だ!!

初任科第88期『実科査閲』

平成30年3月8日

入場

かしら~右!

先頭：川口総代、旗手：杉本副総代

開会宣言

学校長挨拶

来賓挨拶

県危機管理部長挨拶

降旗昌彦 県消防保安課
課長代理が代読

県消防長会会長挨拶

山中史隆 副会長(駿東伊豆
消防本部消防長)が代行

学校長による点検



訓練礼式

88期全員でつくる一つの音

全てはここから

究極の節度!!



火災救助即応要領



消防活動
応用訓練



シャッター破壊・平面検索



高い樹には
深い根がある!



応急梯子救出



フラッシュボックス





消防活動訓練



基本放水訓練

消せない炎はない 前進あるのみ



建物火災消火訓練



救助訓練



交通救助

精鋭無比



一斉放水

俺たちの!!
熱い思いを乗せて!!



体力向上体操



閉会~
学校長講評



新「救助工作車」が消防学校に来たあ〜



本年度予算措置され、購入した最新鋭の「救助工作車」が平成 30 年 2 月 27 日 (火) に消防学校へ納車されました。

また、初任科第 88 期の実科査閲 (3 月 8 日 (木) 実施) において、訓練用として運用を開始しました。



ウインチ [車体前部収納]
(牽引力 5.5t)

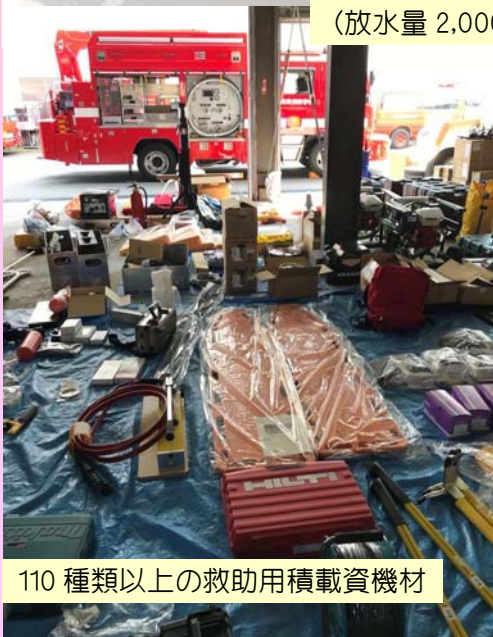


今回納車された車両は、本来の「救助工作車」に、消防ポンプ、更には消火戦術の CAFS (圧縮空気泡消火装置) 等を装備し、1 台で多機能を備えた車両です。

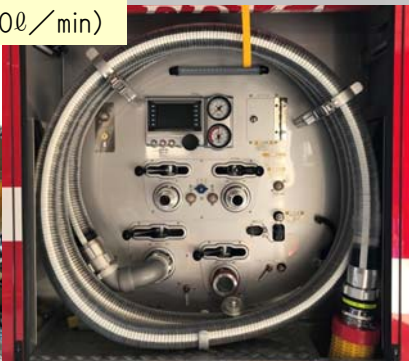
ポンプ [車体右側]
(放水量 2,000ℓ/min)

このタイプは、全国の消防学校で初導入となる「消防ポンプ付き救助工作車 II 型」で、年間を通して、多種多様な教育訓練に活用できます。

総務省令に基づく“特別救助隊”に該当する装備を備えた車両で、緊急自動車として登録し、実災害現場への対応も可能です。



110 種類以上の救助用積載資機材



資機材収納 [車体左側]

クレーン [車体上部]
(吊上げ能力 2.93t)



艙装は、照明装置、CAFSのほか、救助用資機材を 110 種類以上積載します。

来年度の本格的な活躍に
ご期待!!

3月8日(木)、あいにくの冷たい雨・風となりましたが、初任科第 88 期の実科査閲を決定しました。

開式に先立ち、総代、校旗を先頭に堂々と入場行進を行う初任科生たちをサポートするように、新救助工作車が後に続き、屋外訓練場に整列しました。

関係消防長など来賓や初任科生たちの家族等、多くの出席者へのお披露目となりました。



初任科「実科査閲」で本格デビュー！

学校長が挨拶の中で新しい車両の運用開始を宣言！



査閲の中で実施した救助訓練では、現場に駆け付けた新救助工作車から油圧救助器具等を取り出し、事故車両から要救助者を救出する訓練等が披露されました。



実科査閲の締めとなる一斉放水では、新救助工作車が5台の消防車両の中央に位置して、ポンプ機能を存分に発揮しました。

One Chot ワンチョット(チョイネタ)コーナー

3月1日(木)午前10時30分頃、清水区興津中町の御婦人より学校あて外線電話あり。

① 県民のいそ
 昨年の夏ごろ、興津の中通りで高齢の女性が熱中症らしくうずまっております。そこに通りかかった男性2名が女性に優しく言葉を掛けながら、女性の脈拍や呼吸など容態を確認し、しばらくすると女性の体調が戻りました。

その場に居合わせた私も、ソフトな対応に感心して、男性たちに名前を聞くと“消防学校の職員で、当然のことです”と立ち去りました。

連絡が遅れましたが、今日思い出して電話しました。

(電話をいただいた御婦人には)消防学校の職員として当たり前の行動をただけです。今後も、学校への御支援と御意見を願います。

県では、広報力の強化を目指して

「静岡県庁広報グランプリ」を開催しています。

これは、毎年1月1日から12月31日までに実施された広報を対象に、広報に関する改革成果や戦略的な広報について審査を行い、グランプリ(1点)、金賞、銀賞(それぞれ概ね5点)を決定し、表彰するというものです。

な、なんと…消防学校の取組が銀賞受賞!!

② 広報グランプリ

県民の日イベント『消防学校訓練体験』

～「申込者激減」から「満員御礼」までの道のり～

… イベントへの申込者の減少に対して、近隣住民の方々にターゲットを絞り、小学校、店舗、公共施設等にチラシ配布・ポスター貼付を行って、締切前に定員を突破！これを契機に住民の方達に本校や消防そのものに関心を持ってもらうことにも成功！

☆ 手詰まり感があつたイベント参加者の獲得に対し、ターゲットや手法を丁寧に見直して成果を得られた、地域への積極的なPRが参加者増に結び付いた、等の評価をいただきました。

☆ 3月22日、表彰式が県庁で開催され、本校代表で県民の日イベント担当の小沼仁美主任(総務課)が出席しました。





消大レポート 第4弾

幹部科第52期



主査 高瀬 紘士 (富士市消防本部から派遣)

平成30年1月9日、消防大学校(東京都調布市)における総合教育幹部科第52期に入校し、全国から集まった83名の仲間とともに約2ヶ月間におよぶ教育訓練を受けて参りました。幹部科は、消防に関する高度な知識及び技術を総合的に修得するため、多種多様なカリキュラムで構成されており、多くの新しい気づきを得ることができました。

特に多様な指揮能力の実践や緊急消防援助隊の応援・受援体勢を理解するため、消防大学校におけるすべての指揮及びシミュレーション訓練を実施、指揮者としての対応や活動に対しての方針、決断力などが求められ、大変良い経験となりました。



記者会見演習



火災対応指揮訓練



多数傷病者対応訓練



大規模地震災害図上訓練

【消防大学校におけるシミュレーション訓練の紹介】

本館4階シミュレーション室を使用した屋内訓練で、モニター画面に情報や現場の状況等が次々と映しだされ、リアルタイムで活動方針等を決定します。

★実施シミュレーション訓練

火災対応訓練・火災対応訓練(多数活動隊)・多数傷病者対応訓練
建物火災同時2カ所出火対応訓練・緊急消防援助隊受援対応訓練
大規模地震災害時の応急活動対応訓練(常備消防・消防団運用)



緊急消防援助隊受援対応訓練